

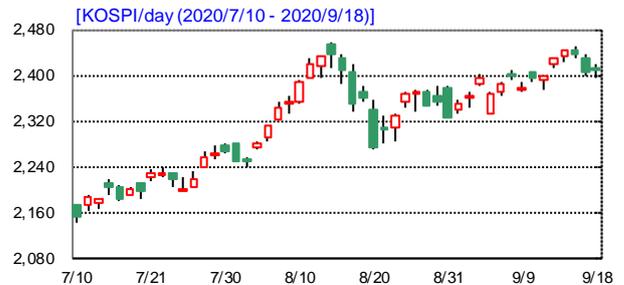


【韓国】 総合指数は週間で0.7%高と4週続伸、今週も米株相場をにらんだ展開か

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.7%高と4週続伸。米ハイテク株相場の動向をにらみながら上昇基調が続いた。週前半は米株高や新型コロナウイルスの国内感染状況が落ち着いたことを支えに上昇し、15日には終値ベースで2018年6月以来、約2年3カ月ぶりの高値を更新した。その後は短期的な過熱感に対する警戒感や米連邦公開市場委員会（FOMC）の結果を受けた米株安の影響で売りが優勢の展開。ただ、韓国ウォンが米ドルに対して8カ月ぶりの高水準となる中、18日は海外資金の流入期待が高まり、小幅に反発している。今週も引き続き米ハイテク株相場をにらんだ展開となるか。米中対立の動向には注意したい。国内の主要経済指標では22日に8月の生産者物価指数（PPI）、25日に9月の消費者信頼感指数が発表される予定。

▼指数チャート

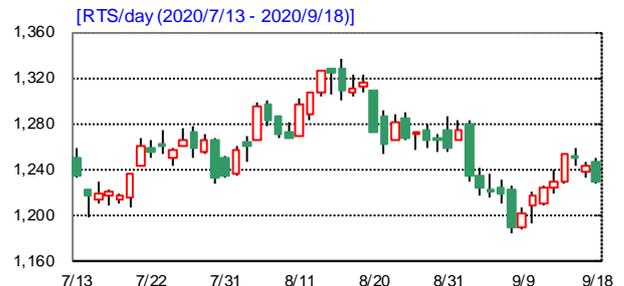


【ロシア】 RTS 指数は0.5%高と続伸、今週は原油・為替相場次第でもみ合いか

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で0.5%高と続伸。原油高、欧米株高を追い風に週前半に大きく上昇したが、利下げが見送られたことで週の上げ幅を縮めた。指数は原油高や欧米株高を受けて週明け14日に前営業日比0.4%高、15日に2.1%高と続伸。米中の経済指標の改善も安心感につながった。週後半は原油相場が堅調に推移したものの、ルーブルが対ドルで下落し、ドル建てで取引される RTS 指数を圧迫した。ロシア中央銀行による利下げの見送りや一段のルーブル安も重しとなり、18日まで3日続落した。個別では金融のズベルバンク・オブ・ロシアが4.2%高、エネルギーのノバテクが4.1%高となった一方、産金のポリメタルが8.7%、エネルギーのタトネフチが5.5%下落した。今週は原油・ルーブル相場をにらんでもみ合いか。

▼指数チャート



【ベトナム】 ベトナム指数は週間で1.3%高と反発、今週は底堅い展開か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で1.3%高と反発。欧米株高や原油高を追い風に、空運、不動産、エネルギー、金融株が上昇し、指数を押し上げた。前週反落した VN 指数は欧米株の上昇を追い風に週初から堅調な展開。週明け14日は空運のベトナム航空や不動産のビンググループが大きく上昇し、15日はビンググループが続伸して相場をけん引。原油高を好感してエネルギーのベトナム石油総社も買われ、指数をけん引した。18日は金融株が軒並み高となり、指数を押し上げた。指数は17日を除く4日間で上昇し、9月4日以来の900ポイント乗せで週の取引を終えた。個別では鉄鋼のホア・ファット・グループが5.1%、軍隊商業銀行が5.0%、ビンググループが3.2%、ベトナム航空が2.5%、テクコムバンクが2.3%上昇した。今週は底堅い展開か。

▼指数チャート



【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.8%高、大規模社会制限の内容に安心感

ジャカルタ総合指数は週間で0.8%高と3週ぶりに反発。週初の上昇が奏功した。14日は再導入された大規模社会制限が予想より緩い内容だったことが好感され、指数は前営業日比2.9%高と大幅続伸。一方、15日は8月の輸出入額が市場予想から下振れした影響で1.2%安と反落すると、16日は中央銀行の政策金融決定会合を翌日に控えた様子見で続落した。17日も方向感に乏しく売り優勢の展開が続いたが、18日は前日の会合後の声明を受けて中銀の独立性に対する懸念が後退した効果で4日ぶりに反発して引けている。今週は国内の重要イベントが少なく、外部要因が指数を左右する展開になりそうだ。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.3%高、今週は 24 日に 8 月の鉱工業生産発表

ストレーツタイムズ指数は週間で0.3%高と3週ぶりに反発。1週間を通じて小幅なレンジでの値動きだった。週初の14日は、前週に約2400人の解雇を実施すると発表したシンガポール航空が下げを主導し、指数は続落。一方、15日に小幅に反発すると、16日は終値で6営業日ぶりに節目の2500ポイントを超えた。ただ、17日は8月の非石油地場輸出が市場予想から上振れたものの、効果は限定的で反落すると、18日も小幅に続落して引けている。今週は23日の8月のCPIに続き、24日には同月の鉱工業生産が発表される予定。鉱工業生産が4カ月ぶりに前年同月の水準を上回れば株式相場の追い風になりそうだ。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.7%高、閣議で長期観光ビザ発給を原則承認

SET 指数は週間で0.7%高と3週ぶりに反発。国内の重要イベントが少ない中、おおむね堅調な値動きだった。週初の14日は前週から下げ止まらず、6営業日続落。一方、15日は前日のNYダウが続伸した上、中国の8月の小売売上高が8カ月ぶりに前年同月の水準を上回った効果で買われ、指数は前日比1.1%高と反発した。16日は前日の閣議で、最大270日間滞在できる長期観光ビザの発給が原則承認され、来月にも外国人観光客の受け入れを再開する見通しとなったことが買い材料となり続伸。週後半は1290ポイントを挟んでもみ合った。今週は23日開催の中央銀行による金融政策決定会合の内容が焦点。

▼指数チャート



【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.1%高、債務不履行案件は「限定的」の見通し

クアラルンプール総合指数は4日間の取引で0.1%高と小幅ながら4週ぶりに反発。週後半の下落が上昇幅を縮めた。週初の14日は、英アストラゼネカが新型コロナウイルスワクチンの治験を再開したことが買い材料視され、指数は続伸。15日は前日に年次総会を開催したゴム手袋メーカーのハルタレガが買われたほか、今月末に終了する銀行融資の返済猶予期間後に債務不履行に陥る案件が限定的な規模にとどまるとの見通しを受けて銀行株も上昇。指数は終値で前日比1.3%上昇した。ただ、連休を挟んだ17-18日は続落して引けている。今週は23日発表の8月のCPIに対する市場の反応が注目される。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。